

- ◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- ◆公益財団法人 日立環境財団
- ◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- ◆公益財団法人 日立国際奨学財団
- ◆公益財団法人 日立みらい財団
- ◆日立ファウンデーション(米国)

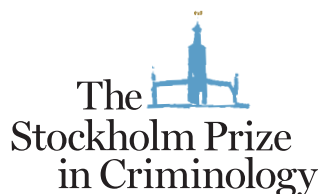
ZAIDAN Report

日立みらい財団

● 25年度活動報告

6月 ● ストックホルム犯罪学賞

6月11日にストックホルムで開催された「ストックホルム犯罪学賞」に助成いたしました。当財団は賞が設立された2005年よりストックホルム犯罪学賞を支援しています。この賞は、犯罪研究に優れた業績、もしくは、研究結果を応用して犯罪の低減と人権の促進に貢献した方に贈られる犯罪学の国際賞とされています。



8月 ● こども・みらいサポート事業

日本BBS連盟と共催で、子どもの健全育成とBBS会員のスキルアップを目的とした体験学習を毎年行っています。

今年度は8月9日から11日の3日間、青森県白神山において、第13回こども・みらいサポート事業「Nature～今こそ自然に還るとき～」と題し、小学5年生・6年生の27名と、BBS会員28名が参加しました。



BBS:
(Big Brothers and Sisters Movement)の略

8月 ● 竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会

1978年から日立市体育協会と日立市スポーツ少年団と共催で毎年開催しています。スポーツを通じて少年少女の健全な心身の育成と友情と連帯感を育て、犯罪や非行のない明るい社会を作ることとしており、8月24・25日に茨城県日立市の小学生が所属するスポーツ団体を対象に、野球・バレーボール・ミニバスケットボール・サッカー・バドミントンの5種目の試合が各会場で行われました。

5種目合計80チーム、1,033名の小学生が、各会場で力強い対戦を繰り広げ観客から熱い声援を受けていました。



9月 ● 「犯罪と非行」発行事業

犯罪や非行のないよりよい社会づくりに資することを目標に掲げ、1969年8月に創刊しました。今年で45周年を迎えます。2013年9月発行の176号から年2回の発行となり、専門的な研究論文以外に「エッセイ」のコーナーを設けました。毎号約3000部を、法務省・裁判所をはじめ関係諸機関、大学や全国の公立の図書館、マスコミ機関などに配布しています。



12月 ● 親子ふれあい工作教室凧づくり・凧あげ

12月8日(土)・9日(日)に八王子BBS会主催の「親子ふれあい工作教室凧づくり・凧あげ」が八王子市の小学校で開催されました。このプログラムは親子交流と地域交流を目的として毎年開催され、当財団は協賛団体として支援しています。「日本の凧の会」の講師のかたがたに凧づくりの指導と凧のあげかたを習い親子で楽しい休日になったようでした。



25年度は支援している3団体から感謝状をいただきました。

1. 公益財団法人日立市体育協会(右)
2. 日本更生保護女性会連盟(下)
3. 日本犯罪学会(右下)



倉田記念日立科学技術財団

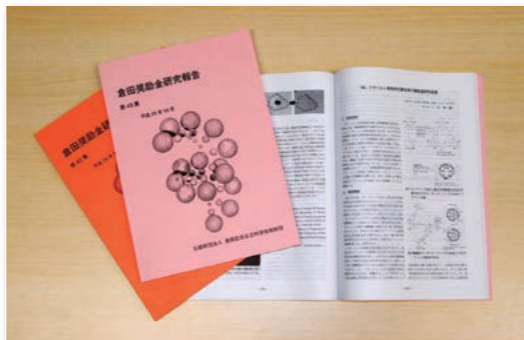
●倉田奨励金研究報告 第43集を発行しました

「倉田奨励金研究報告」は、倉田奨励金の助成を受けた研究成果を、より多くのかたに知っていただくことを目的として、年1回発行しているものです。

最新号の第43集は、平成23年度に助成金を受けた研究者を主に、76名の研究成果を掲載しています。その中から、各分野の研究テーマを一部ご紹介します。

全てのテーマは、財団ホームページに目次を公開しておりますので、こちらをご覧ください。また、在庫がある限り、無償でお分けしますので、ご希望のかたは財団事務局までお問合せください。

<http://www.hitachi-zaidan.org/kurata/works/work03.html>



物理	スピン偏極電子線の超短パルス化と量子性の追求	(名古屋大学 桑原 真人)
有機化学	有機薄膜太陽電池用発電層のモルフォロジー究極制御 -相互貫入接合型構造の構築-	(金沢大学 井改 知幸)
無機化学	強磁性体薄膜に生じる界面磁気異方性制御のための絶縁膜の材料設計	(東京大学 喜多 浩之)
生命科学	傷あとを残さない皮膚の完全再生に関する研究 -両生類から哺乳類へ-	(東北大学 横山 仁)
電気・電子工学	超低損失電力ダイヤモンド半導体パワーデバイス実現のためのpn接合形成技術の研究	(東京工業大学 波多野 睦子)
機械工学	初期角運動量を有する3次元宇宙ロボットに対する高速・高精度姿勢制御手法の開発	(東京理科大学 甲斐 健也)
情報工学	ゲームAIプログラミングコンテストのための高品質フレームワークの実現	(早稲田大学 鷲崎 弘宣)

●平成25年度(第46回)倉田奨励金贈呈式のお知らせ

日 時：2014年3月3日(月) 今年度の受領者が一堂に会して、記念パーティーも催します。
贈呈式：11時～12時/記念パーティー：12時～13時 ご興味のある方は、財団事務局までご連絡ください。案内状をお送りいたします。
会 場：経団連会館

日立環境財団

●「環境サイエンスカフェ」開催報告



第17回「水を守りに森へ」
地下水の持続可能性を求めて
講 師：山田 健さん
(サントリーホールディングス(株)
エコ戦略部チーフスペシャリスト、
九州大学客員教授)
日 時：2013年9月4日(水)
参加者：40名

サントリーの主要製品である飲料は、すべて水に依存しているため、良質な地下水を確保することは事業の根幹となります。今回は、サントリーが工場の水源涵養エリアで、事業として行っている「天然水の森」と名づけられた水源林保全活動についてお話をいただきました。

今、日本の森は危機状態にあります。その要因は、放置人工林、鹿による食害、ナラ枯れ、さらには森林整備のための人材不足などです。これらの問題を解決するための、森林保護から、計測技術、林道整備、植林・伐採、鹿による食害の防止、人材の育成まで、幅広い話題をわかりやすく紹介いただきました。会場からの質問も多く寄せられ、とても有意義な時間でした。



※講演録と会場の様子を、後日財団ホームページで紹介しています。



第18回「米国シェールガス開発の光と陰」
環境リスクの視点から
講 師：藤田 和男さん(東京大学名誉教授)
日 時：2013年11月27日(水)
参加者：48名

米国内で急増している新しいガス資源「シェールガス」の生産量は、日本の天然ガス消費量の2倍に匹敵するまでになり、全米ガス生産量の34%を占めるに至っています。

これは「シェールガス革命」と呼ばれ、世界のエネルギー市場が変わろうとしています。その陰ではガスを取り出すための技術が引き起こす環境破壊が問題となっています。

今回は、藤田さんが実際に現地で見えてこられた米国のガス田の写真を紹介いただきながら、シェールガスの有効性、環境破壊、ガス田の寿命などについてお話いただき「シェールガス革命」の実態について学ぶことができました。



日立国際奨学財団

●グローバル教育研修参加

11月13日(水)、東京近郊在住の奨学生6名が日立製作所情報・通信システム社ゼネラルマーケットビジネス統括本部主催のグローバル教育研修に参加しました。海外ビジネスに関する若手社員に国際的な視野や考え方を養ってもらうために、同年代の東南アジアの大学教員との交流の場を設けることがこの研修の

主旨でしたが、奨学生にとっても普段交流の機会が少ない日本企業の人々との意見交換は新鮮で有意義であり、日本および日立への理解が深まったとの声が多く出ました。研修後の懇親会も主催者の方々のご配慮により終始和やかな雰囲気で行われました。

参加者からの声

日立や事業所紹介の場では留学生から質問が多く出て、活発な議論をすることができ、有意義でした。普段あまり知ることのできない東南アジアでの「Hitachi」のイメージについて生の声を聞くこともできました。文化や生活習慣、留学生の日本での体験などにまでわたって話すことができ、今後自分のキャリアを考える上での一助となりました。

研修・交流という主旨を越えた「発見の機会」として、日立のビジョンや、自分の携わる事業・業務に対する認識を新たにすることができました。自社がめざす世界との関わり方の一形態を肌で感じられたこと、日立の事業や製品に対する印象を伺えたことなどです。奨学生と日立社員が好奇心を高め合いながら議論できたことは、有意義でした。



奨学生と意見交換をする日立製作所社員



参加者全員で記念撮影

●2013年度日立スカラーシップ奨学生が来日

日立スカラーシップは、ASEAN諸国の大学で自然科学分野を専門とする大学教員が日本の大学院に留学することを支援するプログラムです。

本年度の日立スカラーシップ奨学生5名のうち12月入学予定者1名を除く4名が来日し、9月24日から26日のオリエンテーションを実施しました。このオリエンテーションでは、日立グループの概要

を説明するとともに財団の設立理念やスカラーシッププログラム内容の説明を行いました。また、日立事業所および日立ハイテクノロジーズ那珂事業所への訪問を通じて、日立の創業者の思い、歴史そして事業活動への理解を深めてもらいました。オリエンテーション初日には都内在住の先輩奨学生との懇談会も実施し、日常生活や大学での研究生活を送る上での助言を受けました。

今年度奨学生の出身国はインドネシア3名、タイおよびフィリ

ピン各1名で12月入学のフィリピン大学 Mr. Jonathan Caalimも11月末に来日し研究生生活を開始しました。(現在、国内の大学院で学ぶ日立国際奨学財団の奨学生は21名です。)



指導教授、宗政先生(右)のゼミに出席するPrittaさん



谷垣理事長を囲む新奨学生と財団スタッフ

●2013年度 京都・奈良研修旅行

今年度新奨学生5名を対象に、11月27日から2泊3日で京都・奈良研修旅行を実施しました。好天に恵まれ、世界遺産を含む数々の名所を訪れて、日本文化・歴史を学びました。京都・奈良研修旅行は、奨学生に日本の文化・慣習に触れてもらう良い機会であり、1984年の財団創立以来、新奨学生が体験する共通の行事として、毎年実施しております。



小平記念日立教育振興財団

● 第41回小平奨励賞贈呈式

茨城県内で長年にわたり地域社会に貢献してきた個人や団体を顕彰している小平奨励賞贈呈式が2013年10月22日に日立市で行われました。地域の子どもたちに読書活動と布絵本の創作を30年にわたり活動してきた笠間市・熊谷 美喜代さんと、40有余年にわたり子育て支援活動を続けてきた、水戸市・「NPO法人 水戸こどもの劇場」が受賞されました。

● 第24回 駒井メモリアル 家庭教育シンポジウム

2013年12月1日に第24回駒井メモリアル 家庭教育シンポジウムを日本女子大学新泉山館で開催しました。ゲスト講師に、子育てひろば全国連絡協議会理事長・NPO法人びーのびーの理事長の奥山千鶴子氏、風の谷保育園さかえ・こどもセンター主任の甲斐恵美氏をお招きし、地域子育て支援の立場からの講演をしていただきました。そのほかに、日立家庭教育研究所(当財団の子育て支援施設)の親子教室について、金丸智美主幹研究員の発表と、当財団の家庭教育研究委員である、柏女霊峰氏(淑徳大学教授)

の「子ども・子育て支援新制度と地域子育て支援」の指定討論も行いました。講演内容は、財団ホームページに掲載しております。

<http://www.hitachi-zaidan.org/odaira/topics/topics206.html>

● 第42回小平記念作文表彰式

2013年12月11日に日立市で、第42回小平記念作文表彰式を行いました。茨城県内の小中学生から19,295編の応募の中から小学校低学年、小学校高学年、中学校の3部門ごとに、最優秀賞1編、優秀賞5編、奨励賞9編の合計45編が入賞されました。

<http://www.hitachi-zaidan.org/odaira/topics/topics211.html>

部門	学校名	名前	作品名
最優秀賞 小学校低学年の部	筑西市立 川島小学校 3年	梅山 凜	ひいばあちゃんのこと
最優秀賞 小学校高学年の部	牛久市立 牛久第二小学校 6年	依田 悟	ちよっとの力はすごいぞ
最優秀賞 中学校の部	ひたちなか市立 大島中学校 3年	武石 恵世	心に耳を傾けて

3名の作文はホームページで紹介しております。

Information

前号より、財団ニュースレターの発送業務を日立ハイテクサポートにご協力いただいております。日立ハイテクサポート柏倉社長よりメッセージをいただきました。

日立ハイテクサポート

日立ハイテクサポートは、日立ハイテクノロジーズの特例子会社です。80名の社員のうち、30名が障がいを持つ社員です。東京と茨城(那珂地区)に拠点をもち、日立ハイテクグループの間接業務(社内郵便、文書シュレダー、文書電子登録等)を行っています。2013年10月から「ZAIDAN News Letter」の発送作業を那珂地区の知的障がい者3名が担当させていただいております。財団事務局の温かいご理解によりお仕事を頂戴し、私たちも一生涯懸命



取り組んでいます。

日立ハイテクサポートは、障がいの有無にかかわらず、それぞれが個性と能力を発揮し、お客さまに喜んでいただく仕事をする会社をめざしています。これからも発送作業を通して皆さまのお役にたてるよう頑張っております。機会がありましたら、那珂地区にある職場に是非お越しください。



<http://www.hitachi-hitec-support.com/>

先日19号の作業を視察させていただき、丁寧で手際よい作業に感動いたしました。これからも日立ハイテクサポートと連携をとり財団ニュースレターを皆さまのお手元にお届けしてまいります。



本ニュースレターに関するご意見・ご感想等がございましたら、財団までお寄せください。お待ちしております。

公益財団法人 小平記念日立教育振興財団

✉ odairakinen@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6675

公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団

✉ kurata@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6678

公益財団法人 日立環境財団

✉ kankyo@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6677

公益財団法人 日立国際奨学財団

✉ scholarship@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6679

公益財団法人 日立みらい財団

✉ mirai@hdq.hitachi.co.jp

TEL 03-5221-6675

日立ファウンデーション(米国)

✉ shakai.koken.qm@hitachi.com

TEL 03-4564-5040

*日立ファウンデーションについてのお問い合わせは(株)日立製作所 CSR本部 社会貢献部まで。

所在地 〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階

FAX 03-5221-6680

人を育み 未来へ繋ぐ



日立グループの社会貢献活動

発行日:2014年1月31日発行

発行責任者:神山 和也

編集責任者:寺村 奈津季

印刷:(株)日立ドキュメントソリューションズ

財団ホームページ ▶▶▶

www.hitachi-zaidan.org